

コロナ下の活性化策は

新居浜 経営者と知事 意見交換

県内の経済人と中村時広知事が意見交換する「えひめ経済懇談会」が8日、新居浜市大生院のえひめ東予産業創造センターであり、

新型コロナウイルスの影響や地域経済の活性化の課題などについて話し合った。東予の経営者5人が出席した。石鎚酒造(西条市)の越智浩社長は、アジアを中心とする海外の和食ブームにより輸出は好調な一方、国内では新型コロナ下により出荷が落ち込み苦しい状況と報告。小規模事業所が

多い県内ではその影響が大きく、在庫過多や減産により、「酒米を作る農家にも影響を及ぼす可能性がある」と危惧した。

中村知事は、県内では中小の事業所がさまざまな味を提供しているとし「食前、食後肉や魚料理といろんな提案ができる」とさらなる可能性に言及。前向きなバックアップをする考えを示した。タオルメーカーの「藤高」(今治市)の藤高亮社長は、コロナ下で冠婚葬祭が縮小したのに伴い、生産が2割

えひめ経済懇談会で業界の課題や展望について意見交換する東予の経営者―8日午後、新居浜市大生院



数以上が存続の危機にあると述べた。

中村知事は、安価な中国製品などとの激しい競争の中、今治タオルとして地位を確立した業界全体の努力と高い品質を評価。「アウ

トドアやキャンプ市場も狙い目に思う」と助言し、要望のあった雇用調整助成金などについては、使い勝手のいいように「知事会を通して是正を続けていく」とした。(黒田菜緒)

減っているとした。人材育成や技術伝承にも課題を抱えており「現在100社ある(地元)タオルメーカーのうち21社が後継者なし、42社が未定」と、業界の半